



アウグスト強王の 旧所蔵品を確認

伊万里・鍋島ギヤラリーが所蔵している『色絵烏幕桜牡丹文輪繫透皿』が、櫻庭美咲さんを代表とする国内研究者グループの調査成果によって、アウグスト強王ことザクセン選帝侯フリードリッヒ・アウグスト一世（ドイツ）の旧所蔵品だと新たにわかりました。アウグスト強王はヨーロッパで初めて磁器の焼成を成功させ、マイセン窯を設立させたことでも知られています。

今回の発見は、肥前陶磁器の海外流通や当時の王侯貴族の趣味嗜好を知るうえで貴重な資料になります。

『色絵烏幕桜牡丹文輪繫透皿』は、伊万里・鍋島ギヤラリーで7月30日（日）まで展示しています。



↑色絵烏幕桜牡丹文輪繫透皿

みんなで
考えよう
人権・同和問題
No. 265

このコーナーは、隔月のシリーズで掲載しています。これを手がかりに、家庭で人権・同和問題について話し合ってみましょう。

●問合先 生涯学習課人権・同和教育係 ☎23-3186

『おとこは仕事、おんなは家庭』意識の解消を！

週末の午後、スーパーマーケットでメモを見ながら一週間の食材を買い物がこに入れています。連れ合いが入院して生活のスタイルが大きく変わりました。とりわけ平日の朝は大忙しです。朝食の準備に始まり、洗濯や風呂掃除、愛犬の世話、そして、週末は掃除機を動かしながら一週間のレシピを考えてスーパーマーケットへ…。自分が体験することで『あたりまえ』だと思っていたことが、実はそうではないことに気付かされました。同時に家事の楽しさや面白さを知ることができました。

さて、男女共同参画社会の実現を目指して、国をはじめ地方自治体や関係機関、団体などがさまざまな施策を推進しています。ジェンダーギャップ（男女格差）はいまだに解消されていません。世界経済フォーラムという団体

が発表した世界の男女格差ランキングでは、日本は格差が大きいことから驚くほど順位が低く、格差解消にはほど遠い状況です。市が作成した『あなたとわたしのきらめきプランV』においては、家事労働における女性と男性の従事時間、大きな開きがあつて、女性の負担が過重であることが浮き彫りになっています。私たちが暮らすこの社会には『おとこは仕事、おんなは家庭』という固定的な性別役割分担意識が根強く残っています。

ジェンダーギャップの解消という点、自分には何もできないとあきらめてしまう人もいるかもしれませんが、私たちにもできることがあるはず。まずは家庭のなかで、自分にできそうなことにチャレンジしてみよう。新しい世界が見えてくるかもしれません。一歩踏み出してみよう。

郷土の文化財

●問合先 生涯学習課文化財係 ☎22-1262

史跡大川内鍋島窯跡調査事業

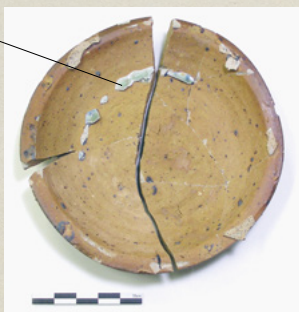
『日峯社下窯跡の調査成果③』

江戸時代には窯を焚く燃料は薪でした。一般的な製品は窯の中にそのまま入れて焼成していたため、製品に灰などが付着して売り物にならない場合もありました。このため高級品を焼成する場合はサヤバチ（ホシ）と呼ばれる桶のような入れ物に入れて、灰が付着しないようにしました。将軍家に献上する鍋島焼もサヤバチに入れて焼成されました。

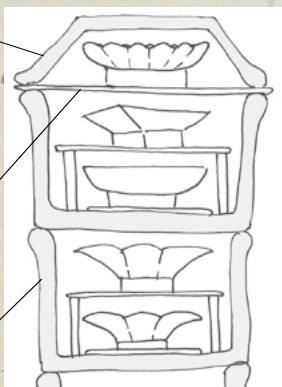
写真はサヤバチのふたの内側に鍋島焼が溶着している

ことが確認できます。これ以外にも鍋島焼がサヤバチの外側の底に溶着したものなども出土しています。

これらのことからサヤバチの中で2段に置いたり、サヤバチの上に薄い円盤状のもの（ハマ）をせてその上に製品を置いて、ふたをしたりするなど、図のように変わった窯詰め方法が行われていたと想定されます。10枚や20枚の一揃え（組物）を焼成するため、このような方法をとったのかもしれません。



サヤバチ（ふた）に溶着した鍋島焼の一部



↑サヤバチ内部の様子

サヤバチ（ふた）

ハマ

サヤバチ